

神奈川県立岸根高等学校 令和4年度 第3回学校運営協議会 議事録

- ・令和5年3月10日（金）15：30～ 岸根高校会議室
- ・出席者：学校運営協議会委員・長島 由佳様（すこやかサークル会長）、金子 博美様（篠原西小学校）
望月 選様（F・マリノススポーツクラブ理事）、大西 勝也様（神奈川大学人間科学部教授）
三田 敏幸様（岸根町内会会長）、丹羽 滋子様（マーマシのほら保育園延長）
山本 真也様（岸根高校PTA会長）、平 容久（岸根高校学校長）
職員・長澤 利恵子（副校長）、井浦 洋（教頭）、久保 裕紀（カリキュラムグループ総括）
宮崎 朋幸（生活支援グループ総括）、上前 理香子（サポートグループ総括）
尾崎 明美（地域連携協働グループ総括）、川崎 陽香（学校管理運営グループ総括）

I 校長より・・・コロナ禍において、体育祭・岸高祭、修学旅行を実施できた意義は大きい。トンネルの先が見えてきた感もあるが、慎重に対応していきたい。また、高校入試では、多くの中学生に志願していただき、改めてその期待にしっかり応えていかなければならないと感じた。この運営協議会を経て、よりよい学校運営に向けて取り組みたい。

II 会長より・・・桜も開花し、新年度への期待が膨らむ。色々なことが可能になってきた。「回復」というよりは「新たなスタート」という思いで、反省すべきところは反省し、子どもたちが様々な体験ができるよう、皆で協力しながら岸根高校を支援していきたい。

III 報告事項

- ①令和4年度学校評価期末報告・・・各グループ総括より説明あり
- ②令和4年度第2回生徒による授業評価結果について（カリキュラムグループ 久保）
- ③令和4年度第2回学校生活に関するアンケート集計結果について（生活支援グループ 宮崎）

IV 意見交換

Q1: (A 委員)・学校生活アンケートも google による集計か？

・生活アンケートの結果を興味深く見た。小学校等では、カウンセラー等との相談予約がパンク状態と聞く。そんな中で、生徒一人ひとりを丁寧に支援しているのは素晴らしい。学校生活の人間関係に重きを置いているのは大事なことであり、相手の話を聞いたり他者の考えを受けとめたりするための「聞く力」は、小さい頃から育ていかねばならない土台だと考えている。

A1: ・生活アンケートは紙で実施した。

・この1年を振り返ると、毎日学校に登校することができなくなった生徒がいなかったわけではない。担任、本人、保護者等が時間をかけて十分に相談したうえで、進路変更をしていく生徒もいた。

Q2: スクールカウンセラーは常駐か？

A2: 3校1グループで、そのうち1校が拠点校となっている。本校への来校日は月に2回程度だが、毎回相談時間が予約で埋まる状況にある。

B 委員：なかなか通常通りの地域行事の運営ができない中で、学校が地域の行事に柔軟な対応をしてくれたのでありがたかった。来年度は防災訓練等への参加も検討していただき、徐々に活動を発展させていければと思っている。

C 委員：岸根高校が中学生に人気がある理由を様々な報告や資料からうかがい知ることができた。「人とどう接すれば良いか」を学ぶことは大切であり、すこやか祭りの子供のサッカー体験では、参加したマリノスのコーチたちも体験が良かったと感想を述べていた。「学校ではない、外（社会）の厳しい世界」を知る機会も必要だと思う。

Q4: 授業評価の2回めで、数字が低くなっている教科があるのが気になる。

A3: 1回目の授業評価結果がとても高く、2回目も他教科に比べて低いわけでない。グラフを見やすく加工しているが、必ずしも評価が大きく下がっているということではない。

D 委員：生徒一人ひとりの様子を温かくきめ細かに把握した上で、具体的に指導している様子が見える。中学生が岸根に来たいと思うのも理解できる。進路変更について早くから丁寧に取り組むのも、生徒のことを考えての指導と考える。

Q4: 生活アンケートの「学校に求めているもの」の「知識の獲得」が減っている理由は何か。また、「居眠りやスマホいじりの人が多い」という記述があるようだが。

A4₁: 高校に行事や部活動の楽しさを求めて入学してくる生徒が多いこともあると思われるが、委員ご指摘の通り、学習に対するモチベーションを上げていくことは私たち教員の課題だと考えている。

A4₂: 授業に集中できない生徒については、各教科担当が注意しているが、すべてに対応できていないかもしれない。授業態度については、全職員で、そのようなことがないように対応していきたい。

Q5: (E 委員) 授業アンケートは、ここに記載されている①～⑦の文のまま質問されているのか。質問の仕方が難しいのでは。

・「知識の獲得」についても数字が上がることを期待する。PTAとして役に立てることがあれば協力したい。

A5: 記載のとおり質問となっている。

校長：この質問については指定されているので、学校判断では変えられない状況にある。

F 委員：生徒による授業評価、学校生活に関するアンケートともに大変興味深いアンケート集計結果である。

IT 機器を使う機会が増える等、「子供に教える立場」という意味では、小学校・高校ともに同じような状況にあると感じる。「便利な道具」だけでなく、「目の前に子供が存在すること」から生まれる悩みは共通なのではないか。この運営協議会に参加し、幼小中高、色々な立場からの視点を知ることができた。

G 委員：「幼・小・中・高と各々の学校文化が異なる」ということをお互いに感じあえる場として、この運営協議会の意義は大きい。学校生活に関するアンケートの回答の中に、他者を思いやる面が垣間見えるのは、この地域のすこやかサークルの活動等の交流教育も多少は影響しているのではないだろうか。

地域の課題について、子供たちに考えてもらうのはどうか。例えば、他所の例では、「地域消防団に高校生がもっと参加するようにするには」という課題に対して、「呼びかけ動画を作成しよう」というアイデアが生まれたと聞いている。色々な地域から集まってきている岸高生が、自分たちの学ぶ場所である岸根地域のことについて考えていくことには意味があるのではないか。活動を広げられる状況になってきているので、今後も各委員の協力をお願いしたい。

この運営協議会での意見交換が、生徒の成長の段階を捉えて、各教科や生徒の学校生活の改善につながることを願っている。

校長：現在、岸根高校が抱えている課題について、再認識・気づきがあった。今後も本校の取り組みにご協力いただきたい。ありがとうございました。